

3. 中国ブロックにおける重点事項

『安全で、誰もが安心して暮らせる地域づくり』

平成11年の台風18号、平成13年3月の芸予地震等を踏まえ、洪水・高潮・地震などの災害や重大事故等に対応する防災・保安機能の向上を目的とした社会資本等の整備とともに、ハード・ソフト両面の危機管理体制を確立する。

併せて、近年の瀬戸内海沿岸などの少雨化傾向や生活水準の高度化による不安定な水利用状況を改善し、都市用水等の安定供給に向けた水資源確保対策等を推進する。

また、特に山陰地方や中山間地域、島嶼部では高齢化の進展など大きく社会環境が変化しており、誰もが安心して暮らせる総合的な交通安全対策やユニバーサルデザイン社会の実現等の環境整備を推進するとともに、高度医療が享受できる充実した地域づくりを進める。

- (1) 洪水、高潮、地震、土砂災害などの災害や重大事故等に対して強い地域づくりを推進する。
- (2) 安全できれいな水の安定供給に向けた水資源確保対策を推進する。
- (3) 誰もが安心して暮らせる総合的な交通安全対策や、公共空間、建築物等におけるユニバーサルデザインの導入等の環境整備を推進する。
- (4) 離島における安定した交流基盤、物流基盤を確保する。
- (5) 船舶航行や海洋性レクリエーション活動の安全の確保を図る。
- (6) 高度医療機関へのアクセス時間の短縮を目指す。
- (7) テロなどに対する危機管理体制や保安対策を強化する。

『中国の美しく豊かな自然・歴史・文化などを活かした地域づくり』

中国地方には、山陰海岸、瀬戸内海及び中国山地等の美しく豊かな自然や出雲神話等古からの豊富な歴史・文化があり、これらを保全・活用することにより世界に誇れ、美しく快適に暮らせる地域づくりを積極的に推進する。

また、交流や自然とのふれあいを進めるために、『道の駅』、『水辺の楽校』、及び『みなとオアシス』などの多様な交流の場や公園の整備・活用を積極的に推進するとともに、瀬戸内海の環境修復の推進、地域特性を踏まえた観光交流空間の整備や、広島市の「水の都ひろしま」構想の推進等により、個性を活かした地域の創造を推進する。

一方、環境への負荷を低減するリサイクル等を進め、循環型社会の形成を目指す。

- (1) 瀬戸内海等への環境負荷の低減を行うとともに、海や川の豊かな水辺環境を享受できる社会を目指す。
- (2) 自然環境の保全・復元を図り、生態系の再生を目指す。
- (3) 公園緑地等の整備や緑化施策の実施により都市の緑を確保し、水・緑豊かで美しい都市生活空間の実現を目指す。
- (4) 地域の特性を生かしつつ、良好かつ特徴的な道路環境の創出を推進する。
- (5) 建設副産物リサイクルを推進するとともに静脈物流システムの構築や廃棄物処理対策を推進し、循環型社会の形成を目指す。
- (6) 生活圏中心都市へ短時間でアクセスできる地域を目指す。

- (7) 歴史的、伝統的なまちなみを保存するとともに、自然・歴史・文化を活かした観光を中心とした地域づくりを目指す。
- (8) 自然、歴史、文化等を通じ、多様なふれあいの場づくりを進め、農山漁村と都市の交流を促進する。

『競争力のある地域経済社会の再構築』

広島市などの各拠点都市においては、総合的な渋滞対策や都市再生の拠点となる地区における都市基盤整備を重点的に進めることにより、地域経済活動の増進を図り、地域の自立的な発展を目指す。

また、物流コストの削減による産業競争力強化を図るために、外貿コンテナや原材料、エネルギー資源等を多く取り扱う特定重要港湾等の機能強化を推進するとともに、港湾・空港や高規格幹線道路などへのアクセス性の向上に努める。

このほか、「産」が持つ先端・先進技術と、「学」が進めてきた基礎的研究との連携を図り、高度情報化社会、循環型社会に対応した新産業の創出を支援する。

- (1) 国際コンテナ貨物及び原材料、エネルギー資源等の海上輸送を効率化し、物流コストを削減する。
- (2) 都市内の交通を円滑にし、渋滞の減少を目指す。
- (3) 既成市街地の整備や交通結節点の改善を行い、都市の再生を推進する。
- (4) 地域産業を支援するため、空港・港湾から高速道路等のＩＣまでのアクセスの改善や拠点都市相互の連携を促進する。
- (5) 高度情報化社会を実現するため、光ファイバー等の活用を図り、産業競争力を強化する基盤を整備する。
- (6) 産学官の技術連携を支援し、新技術・新工法の活用を促進する。

『周辺地域との交流・連携と国際交流拠点の機能強化』

高規格幹線道路等の整備により、広域的交通性を確保し、地域間交流の活性化を図るとともに、山陰・山陽地方の一体的な発展と近畿・四国・九州ブロックとの交流連携を進める。

また、港湾・空港等の機能充実やアクセス性の向上により、国内ネットワークの充実、さらには環日本海交流など国際交流ネットワークの充実拡大を図る。

- (1) 広域的な交流・連携の支援発展のため、高規格幹線道路等の整備によりこれらのＩＣまで短時間でアクセスできる地域の拡大を目指す。
- (2) 広域的な交流促進及び世界に開かれた自立的な地域の形成を図るため、国内航空ネットワーク等の充実及び港湾等において国際旅客対応機能の強化など地域の国際化のための活用を目指す。